つくしの家だより

No. 106　2021. 6. 1

〒421-0522
静岡県牧之原市相良 240－1
（児童発達支援・放課後等デイサービス）
つくしの家
（生活介護事業所）
つくしホーム
☎ 0548－52－2225
事務局　52－0825
FAX　52－1156
e-mail:tsukushihome@aioros.ocn.ne.jp

HP アドレス　http://ichiyoukai.sakura.ne.jp/

小さな芽…

栗林　均

例年より早く咲いた桜の後に、園庭の藤棚ではうす紫の花が気持ちよさそうに風に揺れていました。コロナウイルス感染から一年以上が経過しましたが、未だに終息とはならず心配な毎日が続いています。

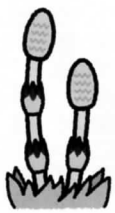
この春、つくしの家では九人の新しいお友達を迎え三十二人の子ども達と親子教室（こぐま教室）のお友達でスタートして二ヶ月が経ちました。新しいお友達は、少しずつお母さんと離れて一人で園にいる時間を延してきました。不安そうな表情も見られましたが、ゆっくりとつくしの空気の中に入ってきてくれています。これからの毎日の中で子ども達はどんな姿を見せてくれるのでしょうか、そして私達はお家の方と一緒に子ども達が日々見せてくれる表情や姿にどう寄り添って行けるのでしょうか…、とっても楽しみで、でもちょっぴりドキドキするような一年のはじまりです。

数年前のことになりますが、こぐま教室を利用して、学校に進んで行ったあるお母さんからお手紙が届きました。紹介させていただきます。

『いろいろお世話になりました。いつも温かく迎えて下さり、息子が何をしてもほめて支えて下さったこと、本当にありがたかったです。振り返れば、つくしの家に行きはじめた頃は、私もあちこちで息子の成長について言われ、悩んでいた頃でした。どこに連れて行っても「ダメ、ダメ」の怒りっぱなしで、正しいことを教えなきゃという思いも強かった気がします。いつしかつくしの家で接する時のおだやかさ、温かさを私自身が勉強していったように思います。息子のおかげで本当にいろいろ勉強させてもらっていると思うし、息子のおかげで感動も多くなっていると思えるようになりました。つくしに通ったのは、息子のためというより私のためだったのかな…と。周りの方々、先生方のおかげだとつくづく思っています。きっとこれからの学校生活でも、いろんなことがおこり、いろんな悩みがうまれると思いますが、息子を温かく支えられるようにがんばっていきます。つくしの家がこれからもたくさんの子ども達の笑顔あふれる場所でありますように…。本当にありがとうございました。また、遊びにいかせて下さい』こんなお手紙をいただきました。

この二ヶ月、新しいお友達を迎え、在園していたお友達も担当の先生が変わったりと、ちょっぴりそわそわしながらのスタートでした。一日の終わり、ロッカーの前ではお迎えに来て下さったお母さん達に今日の小さな出来事をにぎやかに伝えている職員の姿がありました。「トイレで初めておしっこが出ました」「お庭に行く時、帽子をかぶっていれましたよ」「お弁当の時に、イスで待っていれたんですよ」「初めてお昼寝をしました」…、小さな芽があちこちでちょっぴり顔を出してきたように見えました。子ども達がどんな色の、どんな花を咲かせてくれるのか、きっとその答えはずっと先にあるんですね。

（一羊会理事長・つくしの家園長）



～新しい仲間を迎えて　安心できる環境に～

増田　隆

今年は、桜前線が例年にない速さで北上し、それに合わせるかのように野山の緑が色づきました。新茶の収穫が始まる前に田植えが始まり、鏡面のような水田には、稲穂が気持ちよさそうに風になびいています。

まだまだ新型コロナウイルス感染症の流行・拡大が続いています。つくしホームでも、毎朝の検温やマスクの着用のお願い、入室する際の手指の消毒はもちろん、終日窓を少しだけ開けて、時間を決めての換気もしています。ドアや建物内の消毒も欠かさず行っています。あっという間に感染が広まり、外出、食事会、ボランティアさん達や小・中学校との交流会…今まで当然のように行われてきた行事やレクレーション、催しが次々と中止になり、社会全体も情勢が一変しました。ただでさえ外出やコンサート、観劇の機会が少なかった障害者の方々の行動範囲も限られてしまい、不安も増してきています。週末ヘルパーさんと外出して買い物や図書館に出掛けたりする支援や、短期入所（ショートステイ）

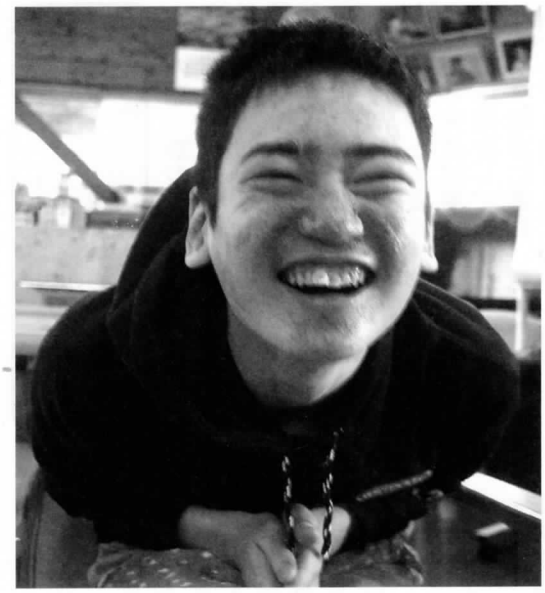
なども見送りとなり、運動不足や利用者さん達やご家族の負担も多くなっています。そして、医療を必要とする人たちにとって必要なアルコール等の物資が足りなくなってしまったことが心配でした。これまで定期的に利用していたリハビリも、接触を避ける為回数や頻度が制限されてしまうという事も懸念されます。中には感覚が苦手でマスクを着けられない、人の顔が変わってしまう等視覚的に抵抗があり、他の人が付けていることでも緊張してしまう方もいます。そんな中でも、行政をはじめ、市民の方々や団体、事業者の方々までいろんな人たちからマスクや消毒液等をいただきました。沢山の方々のご支援に、心より感謝いたします。

つくしホームでも、これまで通り消毒や手洗いの励行を続け、密になる状況を減らし、換気や湿度に十分気を配りながら、出来る限り通常の受け入れが維持できるよう努めたいと思います。命を守ることが最優先であることは変わりませんが、身体だけでなく、豊かな日々を送る事が出来るような年となる事を願います。今だからやれること、気づく事に目を向けながら、前向きな気持ちを忘れないように取り組んでゆきたいと思います。同時に、感染された方々の回復を祈り、治療や看護にあたっていらっしゃる医療従事者の方々、行政の方を含めた関係者の方々に感謝し、皆様の無事を祈りたいと思います。

昨年十二月から、蔦川聡さんが新しくつくしホームに通い始めました。毎日列車や映画、漫画などいろんな種類のお気に入りの本を並べて、自由時間に静かに目を通しています。日課や活動にも慣れてきた様子で、歌を歌ったり、曲に合わせて他の利用者さん達と一緒に上手にダンスを踊っている姿は、とても楽しそうです。利用者さんや職員の名前も覚えてくれました。明るくて優しい声で名前を呼んで、いろんな話題を提供してくれたり、器用さを活かした製作、音楽や散歩、モップ掛けなど、自分のペースで活動に取り組んでくれています。時折素敵な絵も描いてくれて、周りの人たちからすごいね、と声を掛けられています。最初の頃は緊張気味最初の頃は緊張気味でしたが、今ではリラックスした様子で過ごしていて、食後は時折うたた寝をする姿も見られるようになりました。これからも、無理のないように少しずつでもいろんな事を経験しながら、心を広げていって欲しいと思います。

つくしホームでは、四月から三人の新しい利用者さんを迎え、二十五人で始まりました。みんなつくしの家の卒園児で、特別支援学校を経てつくしホームに来てくれました。在学中は何度か実習を経験し、中には

小学生の時から毎年夏の学童クラブを利用してくれていた人もいて、利用者さん達ともすっかり顔なじみです。丈さんは、いろんな事に興味・関心があって、ホールの中や建物内を移動しています。最初の頃は緊張した面持ちでいる事が多かったのですが、最近は笑顔が増えてきて、声を出して笑ったりしながら音の出る本を読んだりして楽しんでいるようです。誕生会の歌（ハピー　バースデイ　トゥーユー）が大好きで、誕生会の時にはとびきりの笑顔を見せてくれます。蒼心さんは、手先の器用さを活かして、ちぎったり、はがしたり、丸めたりする細かい作業や、大型のビーズ通し等を楽しんでいます。椅子の上に身を縮めて座り、にっこり笑いながら周囲を見渡していろんな言葉を掛けてくれています。



友翔さんは、落ち着ける場所を選びながら日々過ごしています。紙を広げて数字や文字を書き、集中して取り組んでいます。たくさんの人の中に居られることも増えました。色んな問いかけに、はにかみながら返事をしてくれて、気分がいい時には声を出して笑いながら身体を揺らしています。学校での時間の流れ、日課、人間関係全てが変わり、まだまだ新しい環境に馴染むのには時間がかかりますが、体調を崩すことなく通ってきてくれている事は嬉しい事です。少しずつ少しずつ、ゆっくりと慣れてくださいね。

三人の利用者さん達、そして小林さんという新しい職員を迎え、一気にホールの中が賑やかくなりました。今の建物は、定員規模に応じて作られていて、明るく、車椅子での移動もスムーズにできます。現在の建物が建つ前は、ひと部屋だけの二十坪もないほどの場所で毎日を過ごしていました。畳二畳程の教材庫、一口だけのガスコンロ、水道は一か所のみで、二つあるトイレは白蟻の被害で床が陥没していました。夏はエアコンもなく、窓を全て開け放ち、壁掛けの扇風機を「強」にして朝からフル稼働、汗だくになりながら、身体が触れるほどの距離でご飯を食べていました。机やテーブルの位置を工夫して、壁も有効活用しながら狭い環境でも工夫していました。早く広い空間で過ごす事が出来ればいいね、と口癖のようにみんなで話していましたが、全員の顔が見えて声が聞こえ、様子がわかる部屋の中はそれゆえの安心感があり、独特の連帯感が生まれました。冬はファンヒーターを使って暖を取っていましたが、隙間風が吹き、頻繁に玄関を開け閉めするため室内はあまり暖まりませんでした。食後に室内の掃除をするのですが、狭い空間に利用者さんと職員あわせてたくさんの人数がいるので、一旦外に出なければなりませんでした。昼休みは天気の良い日には玄関前にござを敷き、外に出るのが好きな利用者さん達が集まり、毛布や布団で暖を取りながら過ごしていました。その場所は樹木により風も当たらず、日向ぼっこのような環境でした。今では考えられない事ですが、それでも利用者さん達は穏やかな表情で身を寄せ合いながらゆったりとした時間を過ごし、体調を崩す人もいなかったように思い出します。そのうち、夢のような新つくしホームの建設計画が進み、平成八年に新しい建物が建ちました。利用者さん達と一緒に初めて中に入った時のことは、今でも忘れません。調理室が独立し、ゆったりとしたトイレ、木の香りに包まれ、広々としたホールを見渡して「うわー、広いなぁ」と驚きの声を上げ、表情を崩していたみんなのことをはっきりと覚えています。

歳月を重ね、当時を知る利用者さんも数えるほどになりました。今は安心して過ごせる場所がありますが、いつかきっと、と願っていた頃の思い、そして今の環境が当たり前ではないことを忘れずにいたいと思います。コロナ禍において「当たり前」という価値観が見直される現在、ここに至る歴史を思い起こし、支援や活動内容の充実だけでなく、今後も安心できる空間や環境づくりを心掛けてゆきたいと思います。

（つくしホーム施設長）

あっという間の…

増田　久子

この春、娘の茉桜（まお）は、小学部から高等部まで十二年間通った特別支援学校を卒業、四月より障害者福祉事業就労支援継続B型施設に通い始めました。

十六年前、二歳の娘を連れつくしの家を訪ねた私を迎えて下さり、涙と共に溢れる不安に、ゆっくりと頷きながら先生は寄り添ってくれました。娘に何をしてあげたら成長できるのか？途方に暮れ、色のない世界にいるような日々。つくしのホールをくるくる回る娘を照らす夕日がとっても優しかったこと、あの日のことは、娘の成長の節目を迎える度に思い出します。

娘は重度の自閉症と診断を受けました。歩き始めた頃から少しずつ感じていたその特徴である行動や言葉の遅れを、現実と受け入れるにはとても長い時間が掛かりました。三歳の判定を待つまでの間も少しでも療育を受けたい、居ても立っても居られない気持ちでした。二歳から親子でのこぐま教室に通い、つくしの家に入園しました。人と目が合わない、園長先生のギターやお歌も、先生の絵本の読み聞かせも、少しも落ち着いて座ることが出来ず、手を離せばくるくると回りだす。昼と夜が無い、寝ない、朝まで起きていることも。食べ物も服も環境も変化に対応出来ない。言葉が理解出来ず、絵カードとマカトンサインで動作と単語を結び付けていく。つくしの家に通いはじめたばかりの頃、成長の変化を感じることが出来ず日々の療育の繰り返しに遠い目になった時がありました。そんな時、お便りか何かでこんな言葉を目にしました。『小さな種は少しずつ芽を出し、ゆっくりと成長し、幾つも枝をはり、葉を茂らせ、沢山の蕾をつけ、ある時一斉に花を咲かせる』でも…。いつまで続けたら茉桜の花は咲いてくれるの…？

娘が卒園から十五年経った今、就労先では作業時間は手を休めることなく落ち着いて黙々と作業に集中し、資材準備や新しい作業の手順も一度の声掛けで理解し、休憩時間のオンオフの切り替えもスムーズ。その落ち着きと対応力に驚きました。遠く長く思えた道のりはあっという間でした。家では自分から気づくお手伝いも増え、私がケガをすればさっとティッシュを持ってきて、痛い？と心配してくれ、疲れて横になると毛布をかけてくれます。人の気持ちへの関心や思いやりの心が育つなんて、一番想像出来なかった成長の花です。それもすべて、基本の所作と繰り返しのリズムを、日々根気よく丁寧に先生方が見守り続けて下さったつくしの家での四年半があるからこその、今、なのだと実感しています。つくしの家を訪ねると、先生達はあの頃と変わらない笑顔で迎えて下さり、娘もあの頃と同じ場所に座って絵本を見ています。その変わらない温かさにいつも癒されています。

（つくしの家卒園児保護者）

思い出の手紙

西村　雅子

私が初めて介護の仕事に就いたのが、高齢者施設で、少人数の認知症型グループホームでした。認知症を患っていても、自立している方、介護を必要とされる方が共に生活します。「やってあげる介護」ではなく、個人を尊重し、その機能を十分に発揮できるようにサポートします。

高齢者の施設は、一見穏やかに見えますが、入居者様同士の口喧嘩、暴言、異食、放尿、徘徊、怪我、転倒、単独外出などが日常起こります。事故を未然に防ぎ、安全で安心した生活を過ごして頂けるように、スタッフは見守りや入居者様の所在確認を怠らないようにすると共に、スタッフ間での声掛けを行う事も大切なルールです。そのような生活支援の中で、入居者様からの「ありがとう」の一言や笑顔がスタッフの励みになります。家族の面会や外出、定期的に来て下さるボランティアさんなど、とても楽しみにしています。今は、新型コロナの影響で、楽しみが減ったのではないかと思うと心が痛みます。

私が今でも思い出す男性入居者の方がいます。既往歴は、心筋梗塞、大腿骨頸部骨折、下腿皮膚潰瘍、梅毒、C型肝炎などで、狭心症、脳血管性認知症は治療中です。身の回りの事は自立していて、明るくて、話がとても好きな方です。その方も、娘さんの面会や外出をいつも楽しみにしていたひとりです。私が夜勤の時には、夜中起きてきて、お茶を飲みながら取り留めのない話をよくしました。正月には封書で年賀状を頂いたり、感謝の気持ちが綴られた手紙もくれました。私が退職した後もボランティアで伺うと喜んでくれて、その時もお礼の手紙を頂きました。その後も手紙は続き、手紙はいつも「西村くん、こんにちは」で始まります。外出した時の思い出や、「夜勤の時は、お茶を持ってきてくれたり、布団を直してくれて嬉しかった。」という内容が度々書かれていました。私も手紙が届く度に、大変嬉しかったことを今でも懐かしく思い出します。

そして2年後に届いた手紙には、「家で不幸があり、年賀状が出せなかった。」と書かれていました。後から、娘さんが亡くなられたことを知りましたが、ご自分の辛い気持ちより、私の体を気遣う言葉が添えられた手紙でした。それから、その方は他の施設へ移られたと聞きました。その後手紙が届くことはありませんでしたが、今も元気で過ごされている事を願っています。

私は現在、週2日つくしホームで生活支援員をさせて頂いています。ホームの皆さんが大好きで、充実した日々を過ごしています。

（つくしホーム職員）

ご報告

新型コロナウイルスの感染が始まってすでに一年半が経とうとしています。また変異ウイルスによる感染も広がってきています。不安な毎日が続いていますが、一日も早い終息の兆しが見えることを祈らずにはいられません。

このような状況の中、つくしの家は、四月に二歳から五歳までの九人の新しいお友達を迎え、三十二人の子ども達と親子でのこぐま教室のお友達でスタート、つくしホームには、特別支援学校高等部を卒業した三人が加わり十八歳から七十三歳までの二十五人で一年が始まりました。

二つの園とも、この間休園することなく開園してこれました。ただそれまで当たり前のようにご家族の皆さんとおこなってきたたくさんの行事や地域の皆さんとの交流なども中止したり、内容を縮小させていただきました。人と人との距離、毎朝の検温やマスクの着用、手洗い、建物内の消毒などが、この一年半の毎日の中で繰り返されてきました。そういうことを考えずに生活できていた以前の毎日は、本当はとてもありがたいことだったんだと感じました。

以前、新聞にこんな言葉が書かれていました。…『天竜出身の童謡詩人・坪井安さんの作品「ありがとう」（前田六郎作曲）の中の「ありがとうの言葉は一つだけれど　ありがとうの心は数えきれない」「ありがとうの言葉は一つだけれど　ありがとうの型は数えきれない」は、すばらしい。私は、この歌を聴くたび「いい言葉だなあ」と思う。いま、多くの日本人に、この「ありがとう」という気持ちが不足していないか。

「ありがとう」の反対の言葉は「あたりまえ」だそうである。なるほど「ありがとう」の元は「有り難い」だから、反対語が「あたりまえ」というのもうなずける。世の中にあるもの、身の回りにあるものが何でも「あたりまえ」になってしまえば、「ありがとう」が影を潜めるのが道理である。しかし、私たちが「あたりまえ」と思っているものの多くは、本当は「あたりまえ」ではなく「有り難い」ことなのを知らないだけのことである。』…、こんな文章でした。

ここにたくさんの子ども達や利用者さん達がいて、そして日々見せてくれる表情に一喜一憂しながら、小さなできたことをご家族の皆様と一緒に喜び合えること…、本当はいくつもの「あたりまえではない」ことがあることを改めて感謝しながらこれからもみんなで歩んで行きたいと思います。

令和二年度の後援会決算を報告させていただきます。梅雨の時期を迎えます。皆様のご健康とご自愛を心よりお祈り申し上げご報告とさせていただきます。

つくしの家後援会　代表交代のお知らせ

このつくしの家後援会の代表としてこれまで支えていただきました古川良朗様がご病気のため今年二月に亡くなられました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。そして新たに横山勤様が代表となりました。横山様は、つくしの家ができて間もなくの頃からずっと通い、現在はつくしホームに通う充男さんのお兄様です。これからも後援会の皆様、地域の皆様のご声援をいただきながら、みんなで元気に歩んで行きたいと思っております。

（事務局）

令和２年度 心身障害児通園施設つくしの家 後援会　決算報告書

収入金額	2,842,474円
支出金額	5,081,194円
差引金額	-2,238,720円

（不足分は繰越金より補填）

収入の部

科目	金額	説明
1 寄附金収入	2,153,777	270口
2 雑収入	688,697	預金利子、掛川信用金庫解約分
合計	2,842,474	

支出の部

科目	金額	説明
1 事業費支出	446,596	
(1) 一般物品費	64,328	事務用品代
(2) 印刷製本費	127,600	たより104号、105号
(3) 役務費	251,458	払込料金、たより発送代
(4) 雑費	3,210	残高証明手数料
2 繰入金支出	3,946,000	
(1) 本部会計繰入金支出	3,946,000	
3 雑支出	688,598	
(1) 雑支出	688,598	掛川信用金庫解約分
合計	5,081,194	

取扱金融機関のご案内

三菱ＵＦＪ銀行静岡支店
普通　4254072
口座名　つくしの家後援会
（以下同じ）
静岡銀行相良支店
普通　145949
島田掛川信用金庫相良支店
（旧島田信用金庫）　普通　134511

郵便振替
00820－5－57983
口座名　心身障害児通園施設
つくしの家後援会

つばさ

◆つくしの家のあゆみ

十一月　◎今年度は「ちいさな運動会」を近くの津波避難タワー下の人工芝広場で行いました。◎初めての企画で、交通安全協会の指導員さん達による「交通安全教室」を行いました。道路を渡る練習もして、とてもいい経験になりました。◎日赤奉仕団相良分団の皆様、島田法人会青年部様からタオルやお茶をいただきました。

十二月　◎二回目の「おはなし会」は、グランマさんが来て下さいました。◎障害者週間に、お世話になった皆様に子ども達が作った来年のカレンダーを配りました。◎クリスマス会は子ども達だけで行いました。歌やゲーム、職員の楽器の演奏、サンタさんは市内の結婚式場うおとも様の社長さんが来てくれました。子ども達も突然のサンタさん登場にびっくりでした。◎相良保育園よりクリスマス献金をいただきました。

一月　◎みんなで書き初めをしました。自分で筆を持って書いたり、それぞれ好きなことや新年の思いを書きました。全員「金賞」でしたよ。

二月　◎つくし東館裏の職員駐車場の東側の土地をお借りすることができ、駐車場を広げる工事をしました。◎菅山小学校さんからアルミ缶回収の収益で色鉛筆と画用紙をプレゼントしていただきました。◎今年度も「カーブス牧之原相良」様よりチャリティイベントでたくさんの食料品をいただきました。◎市の農林水産課様より市内の農家さんで作られた農産物をたくさんいただきました。

三月　◎牧之原小学校さんから、アルミ缶回収の収益で活動で使う教材をいただきました。◎十一人のお友達が卒園しました。それぞれの道でがんばって下さいね。卒園児が胸につけたコサージュは今年度も小塚好子様が作って下さいました。

四月　◎新しく九人のお友達を迎え、三十二人の園児でスタートしました。会場のお花は旧職員の松下通子先生が飾って下さいました。◎春休み中に、市により玄関ドアの改修工事をしていただきました。引き戸になり風の強い日でも安心です。◎トイレの増設工事を行いました。子ども用の洋式トイレと立ち便器が増えました。◎ご入学おめでとうございます。小学部一年生の達希くん、高等部一年生の結愛さんと麻莉さん、元気にお勉強頑張って下さいね。

◆つくしホームから

11月　☆牧之原市赤十字奉仕団相良分団の皆さんが、慰問に来てくださいました。日用品などもたくさんいただきました。いつもありがとうございます。☆牧之原市の障害者啓発事業の一環として12月中旬まで総合福祉センターや相良庁舎ロビーにて福祉事業所の紹介が行われ、つくしホームも日常の活動など写真を豊富に使ったパネルを展示しました。

12月　☆静岡こども福祉専門学校2年生2名実習。☆クリスマス会は、コロナ禍の為利用者さんと職員だけで行いましたが、サンタさんは変わらずプレゼントとたくさんの笑顔を届けてくれました。

1月　☆今年は、大石瑞樹さん、岡村なのかさんの2名が成人を迎えました。ブレザー姿と着物姿の2人は、「おめでとう」という祝福の言葉にちょっと照れながらも、素敵な笑顔を見せてくれました。☆年初め恒例の書初めは、個性ある作品が沢山出来ました。

2月　☆つくしホームでも豆まきが行われました。赤鬼、青鬼が出てくると皆で豆をまいて鬼退治。無病息災、特に新型コロナウイルス感染症の終息を皆で願いました。☆牧之原市農林水産課様から市内の農産物（メロン、イチゴ、みかん等）をいただきました。早速みんなで食べました。そのおいしさに、みんなとても幸せそうな表情を浮かべていました。☆カーブス牧之原相良店様より今年もフードドライブ事業に寄せられた食料品をいただきました。皆さんのご厚意に心より感謝申し上げます。☆ご近所の方から啓翁桜（けいおう）を、そして保護者の方から桜の花をいただき、室内での花見を楽しみました。

3月　☆ひなまつり会、みんなで塗り絵に挑戦したり、ひなまつりにまつわるクイズで盛り上がりました。

4月　☆吉田特別支援学校高等部を卒業した高須丈さん、尾白蒼心さん、石川友翔さん3名がホームの仲間になり、職員として小林浩江さんを迎えました。☆天気のいい日にはなるべく外に出て、散歩や中庭での外気浴を楽しんでいます。毎日、換気や消毒をこまめに行い、密を避けていろんな活動を行いながら、できる範囲で工夫を凝らし、みんな元気に過ごしています。

編集後記

感染症の流行が続き、手をつないだり、いろんなものを触る、身体を寄せて触れ合う機会が制限され、生活様式の大きな変化に戸惑う日々が続きます。特にこどもたちが育つ中で、大切な事が抜けてしまうようで、とても心配です。少しでも心に影響が少なく、安心して過ごす事が出来る環境や日々が来ることを、心から願っています。